

海外安全対策情報

【定期報告：10月～12月】

在ケープタウン領事事務所

1 西ケープ州における犯罪傾向

- (1) 観光客を狙った犯罪が多様化、巧妙化しているため引き続き注意が必要である。
- (2) 在ケープタウン領事事務所管轄地域の2017年10月～12月における邦人に対する被害の報告件数は1件であった。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

ア 邦人被害者情報なし。

イ 10月14日午前0時頃、ステレンボッシュで、ギャング抗争に巻き込まれたクラブ経営者2人が殺害され、もう一人が負傷した。ケープタウンのギャング抗争は、ナイトクラブの警備の管理権限を巡る争いを発端に激化している。

ウ 10月27日午前11時頃、ロンデボッシュで失踪した実業家が180キロほど離れたタウズリバーという地域で首をはねられた遺体となって見つかった。容疑者2人は誘拐の容疑で取り調べを受けている。

(2) 強盗

邦人被害

ア 10月29日午前中、タンボスクーフにあるATMで引き出しをしていたところ、キャッシュカードが出てこず、その際後ろに並んでいた人にキャンセルを押し、別のカードを入れろと指示され、気づかぬうちにカードを盗まれた。

その他の被害事件

ア 10月3日、5人の武装した強盗がケニルワースのショッピングモールの携帯電話販売店に押し入り、客の持っている携帯電話1つを盗み逃走した。発砲はなく、けが人はなかったが、その後犯人は捕まっていない。

イ 11月24日14:00頃、武装した5人の男性がケープタウンの近郊旅客鉄道の車両内で金銭、携帯電話、鞆の中の所持品を出せと脅し、乗客から強奪した。車両にいた人のうち3人の女性が他の車両に逃げ込み、警備員に知らせたが、もう一人の男性が逃げようとしたところ、強盗が発砲し、右足に怪我を負った。

(3) 強姦

ア 邦人被害者情報なし。

(4) その他

ア 10月18日早朝5時過ぎ、ケープタウン空港にてギャング団の幹部を狙った銃撃があり（同幹部負傷）、この銃撃の流れ弾により、一般人1名が負傷した。

イ 11月9日、ケープタウン市内の病院近くで、車を狙った銃撃があり、銃撃を受けた車の助手席には銃痕が残っていた。この病院はギャング団の幹部がいた病院とみられており、一連の事件はギャング抗争の一部だと見られている。

ウ 12月13日（水）昼頃、Al-Quds 財団及び Muslim Judicial Council of South Africa 主催により、米国のエルサレムをイスラエルの首都とする旨の表明に対する抗議デモ行進がケープタウン市内国会近くにて行われた。

3 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし。

5 対日感情

概ね良好。

6 日系企業の安全に関する諸問題

特になし。

7 日本人安全対策のためにとった具体的措置

(1) 在留邦人へのお知らせ等の発出

不定期ながらも、安全対策に役立つ情報を当事務所より「領事事務所からのお知らせ」としてメールを発出し、在留邦人に対して安全対策情報を発信している。

(2) その他の措置

常日頃より、当地在住の邦人等との意見交換を行い、当地での生活の安全情報の収集に努めている。